

令和7年9月

令和7年	7月	～	9月期	実績
令和7年	10月	～	12月期	見通し

中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

主要景況項目の動き.....	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移	23
* 過去10年間	
〔集計資料〕	

D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

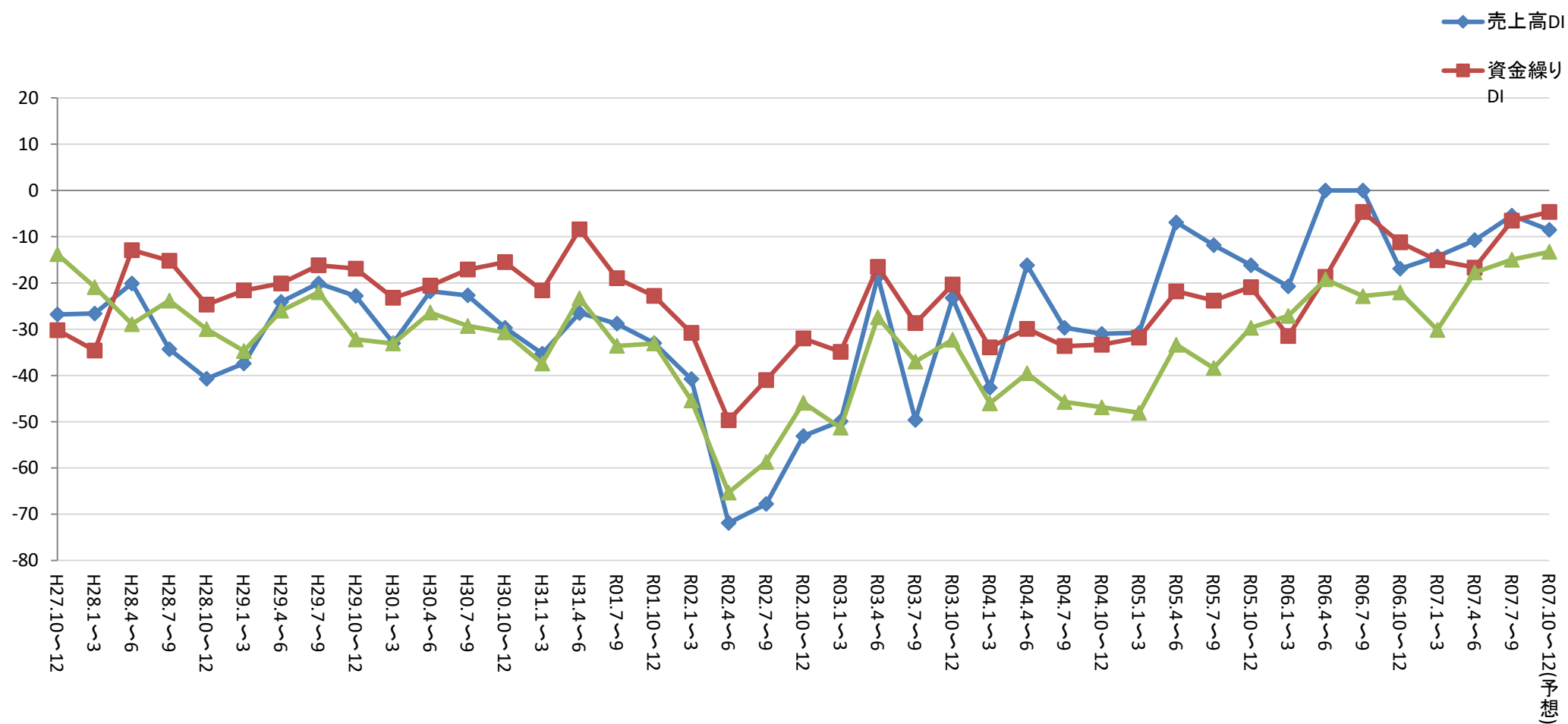
D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。

たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、 $D・I = 50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。

[岩手県 産業全体]

主要景況項目の動き ー前年同期比ー



業 況 天 気 図

期 間 業 種	令和5年 10～12月	令和6年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	令和7年 1～3月	4～6月	(今期) 7～9月	(見通し) 10～12月
製 造 業	 曇	 曇	 薄 曇	 薄 曇	 曇	 薄 曇	 薄 曇	 薄 曇	 薄 曇
建 設 業	 曇	 曇	 晴	 薄 曇	 曇	 曇	 雨	 曇	 曇
小 売 業	 雨	 雨	 曇	 曇	 曇	 曇	 曇	 薄 曇	 曇
サ ー ビ ス 業	 薄 曇	 曇	 薄 曇	 薄 曇	 薄 曇	 曇	 薄 曇	 薄 曇	 薄 曇

売 上 高 D I	100.0 ～30.1	30.0 ～10.1	10.0 ～△10.0	△10.1 ～△30.0	△30.1 ～△100.0
表 示	 快 晴	 晴	 薄 曇	 曇	 雨

全産業の推移

売上高

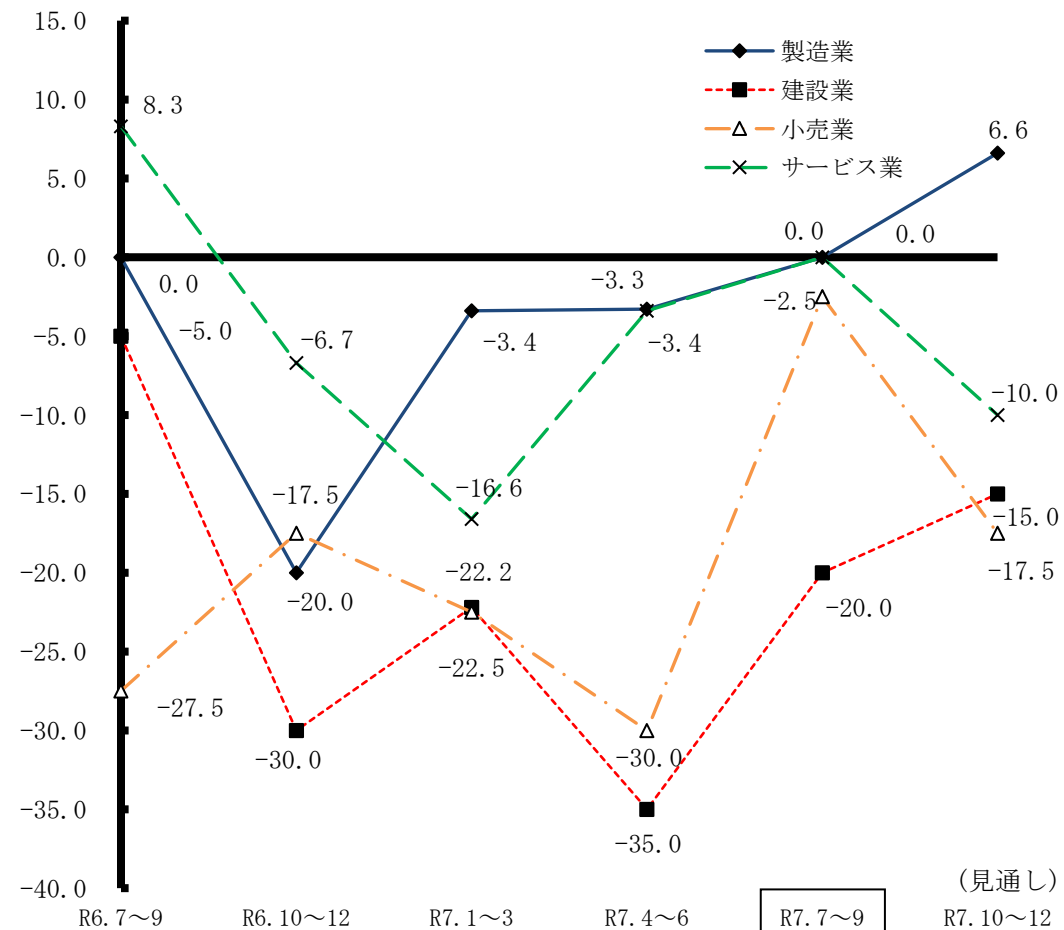
**全産業において売上高D・Iが上昇
小売業はマイナス幅を大幅に縮小**

今期の売上高D・Iは、全産業において上昇となりました。2期連続して低下していた小売業は大幅な上昇となりました。前期大幅に低下していた小売業は上昇に転じてマイナス幅を大きく縮小、製造業は3期連続の上昇となり売上高D・Iがゼロに到達、サービス業も2期連続の上昇となり売上高D・Iがゼロに到達、前期大幅に低下していた建設業も大幅に上昇しています。

製造業は3.3ポイントの上昇によりD・Iゼロまで改善、サービス業も3.4ポイント上昇によりD・Iゼロまで改善しました。小売業は27.5ポイントの大幅な上昇により△2.5まで改善、建設業も改善に転じ15.0ポイントの上昇により△20.0まで改善しています。

来期は、製造業が4期連続の上昇によりプラス域に到達、建設業も今期に引続き上昇することが見込まれます。他方、サービス業と小売業は低下に転じる見通しとなっています。

※建設業の売上高は完成工事高



全産業の推移

採算

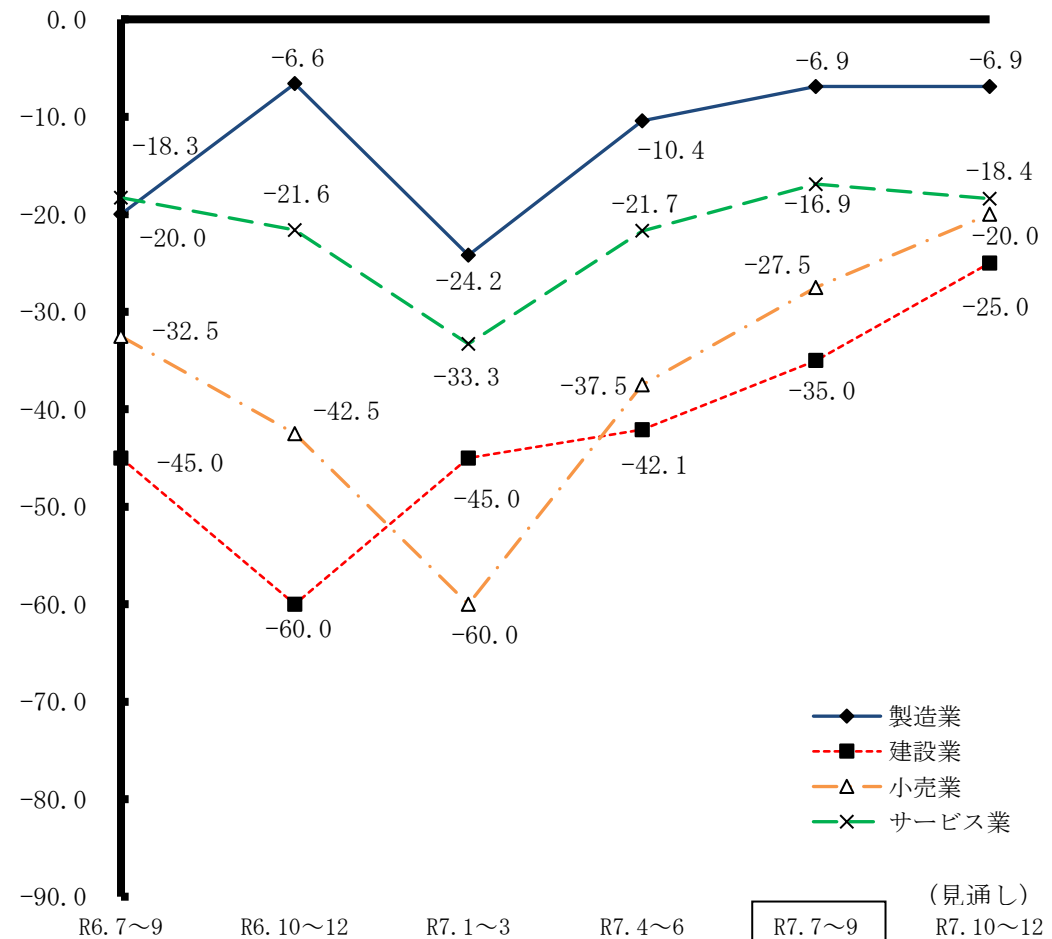
**全業種において採算D・Iが改善
小売業は二桁台の大幅改善**

今期の採算D・Iは、全業種が改善となりました。製造業、サービス業、小売業は2期連続しての改善、建設業は3期連続の改善となりました。

製造業は3.5ポイントの上昇により△6.9となりマイナス幅を一桁台まで縮小、サービス業は4.8ポイントの上昇により△16.9まで改善、小売業も10.0ポイントの上昇により△27.5まで改善、建設業は3期連続の改善となり、△35.0まで上昇してマイナス幅を縮小しています。

来期は、サービス業が僅かながら悪化に転じ、製造業が今期と横ばいにとどまるものの小売業、建設業の2業種は今期に引き続き改善することが見込まれています。

※採算は各業種とも経常利益



全産業の推移

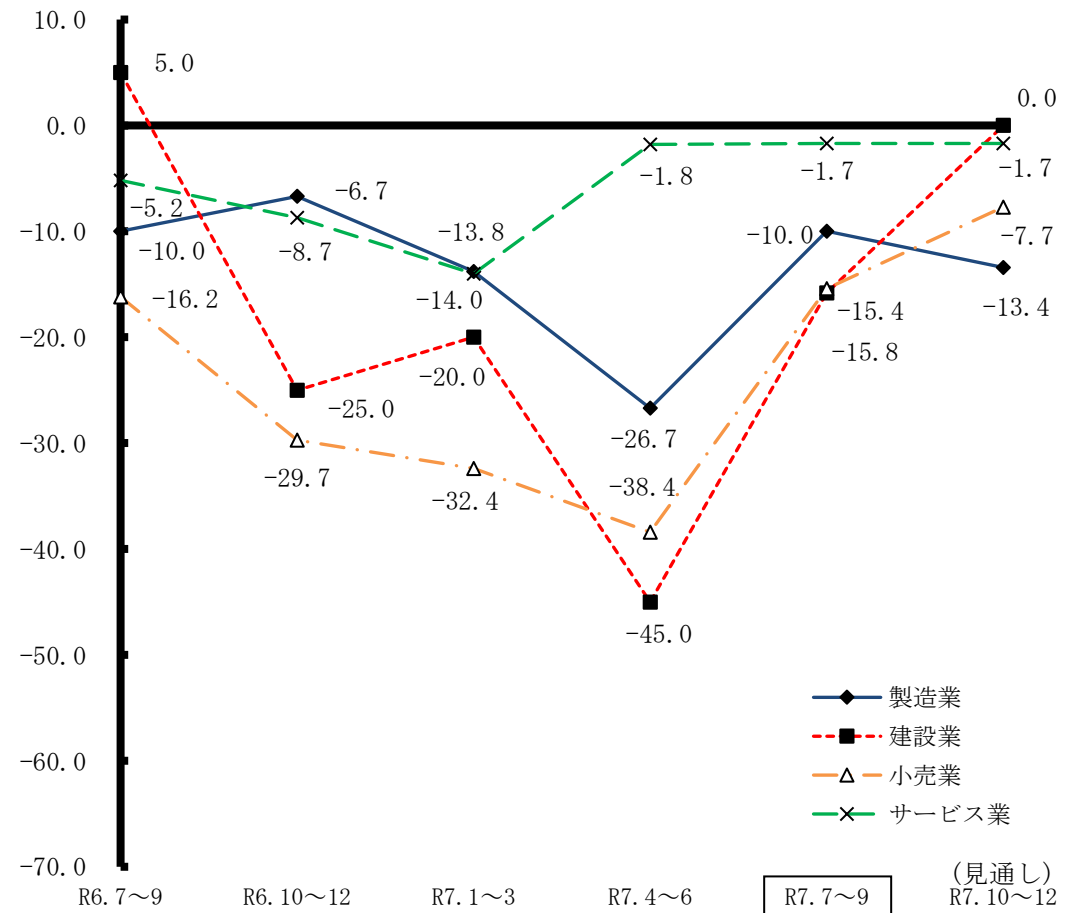
資金繰り

**全業種において資金繰りが改善
建設業、小売業は大幅に改善**

前期まで悪化していた製造業、小売業、建設業の3業種において資金繰りD・Iが大幅に改善、サービス業も僅かながら2期連続の改善となりました。

前期大幅に悪化していた建設業が29.6ポイントの上昇により△15.4まで改善、3期連続して悪化していた小売業も改善に転じ、23.0ポイント上昇して△15.4まで改善、製造業も16.7ポイントの上昇により△10.0まで改善、サービス業も僅かながら上昇し、△1.7まで改善しています。

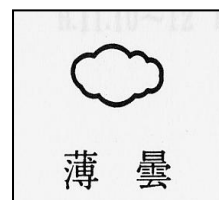
来期は、サービス業が今期と横ばい、製造業が僅かな悪化に転じるものの、建設業と小売業は今期に引続き改善することが見込まれます。



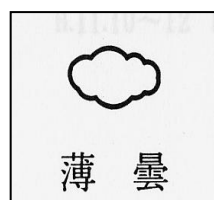
製 造 業 の 推 移

売 上 高

<今 期>

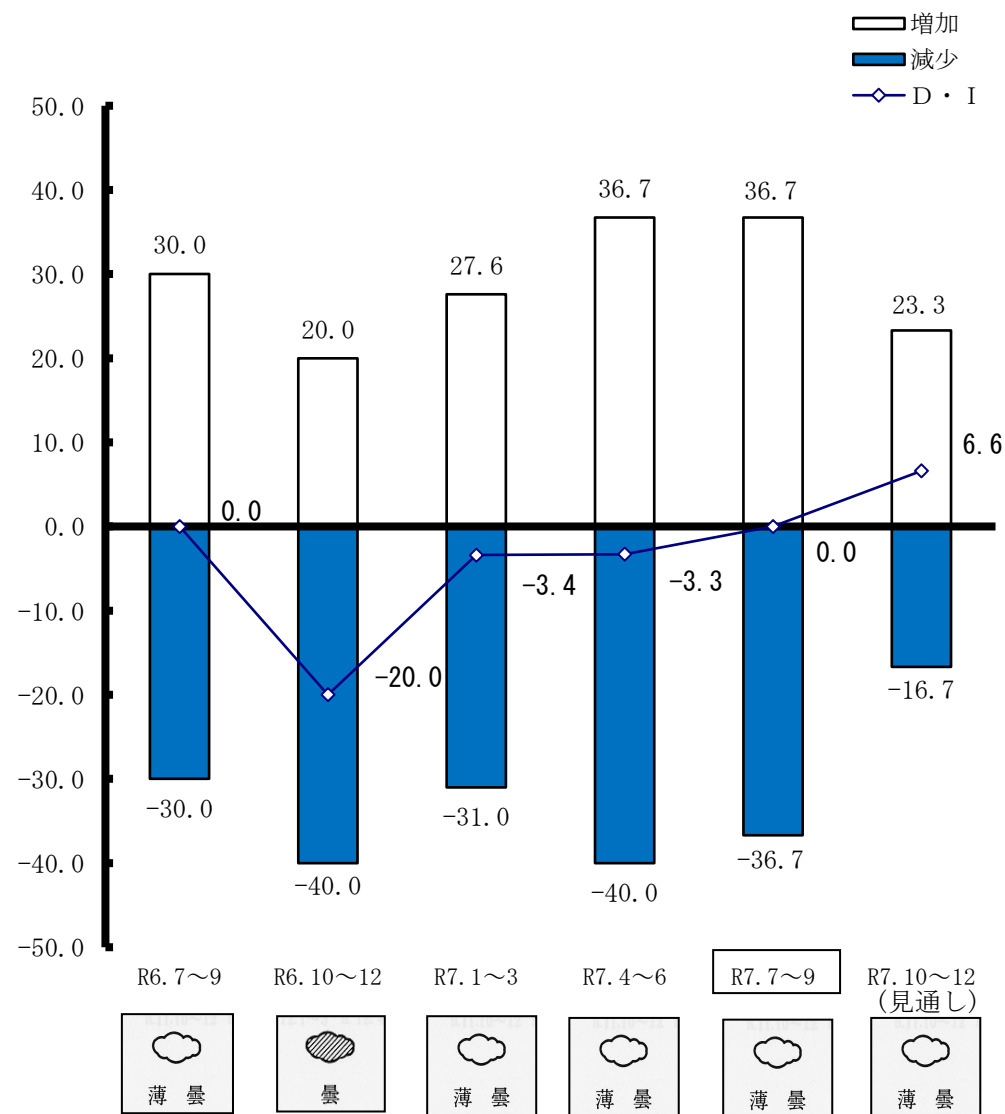


<来期見通し>



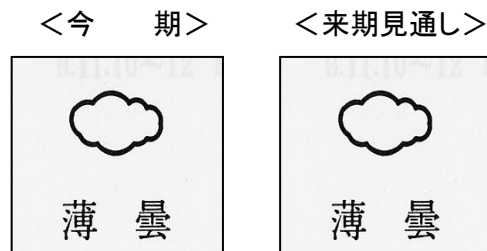
今期は、売上高増加企業の割合が前期と横ばいにとどまったものの、売上高減少企業の割合が3.3ポイント減少したことにより売上高D・Iは3.3ポイント上昇してゼロまで改善しました。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が減少するものの、売上高の減少を予想する企業の減少幅が大きいことにより、売上高D・Iはプラス域に到達する見通しです。



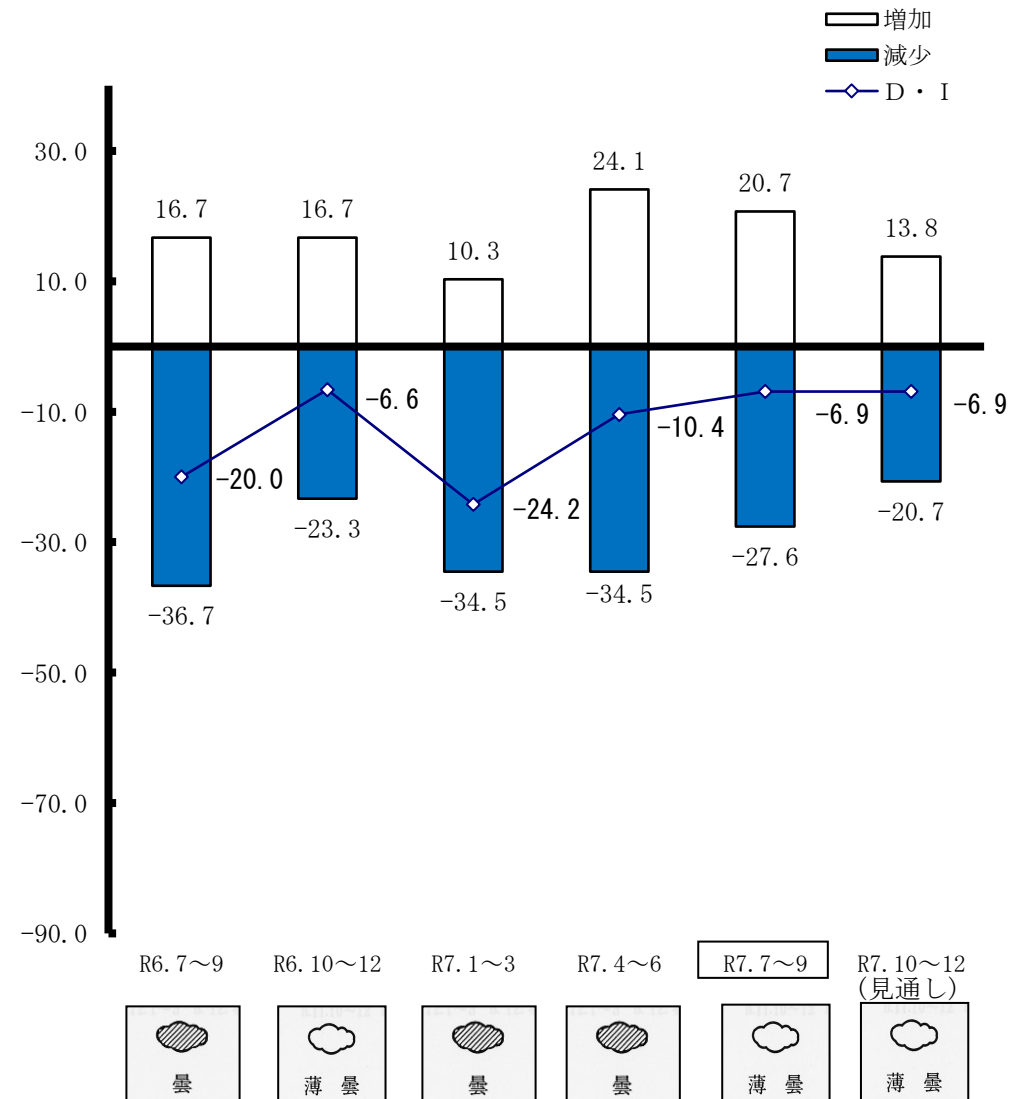
製造業の推移

採算



今期は、採算が改善した企業の割合が3.4ポイント減少したものの、採算が悪化した企業の割合が6.9ポイント減少したことにより採算D・Iは3.5ポイント増加して△6.9まで上昇し、前期に引続きマイナス幅を縮小しています。

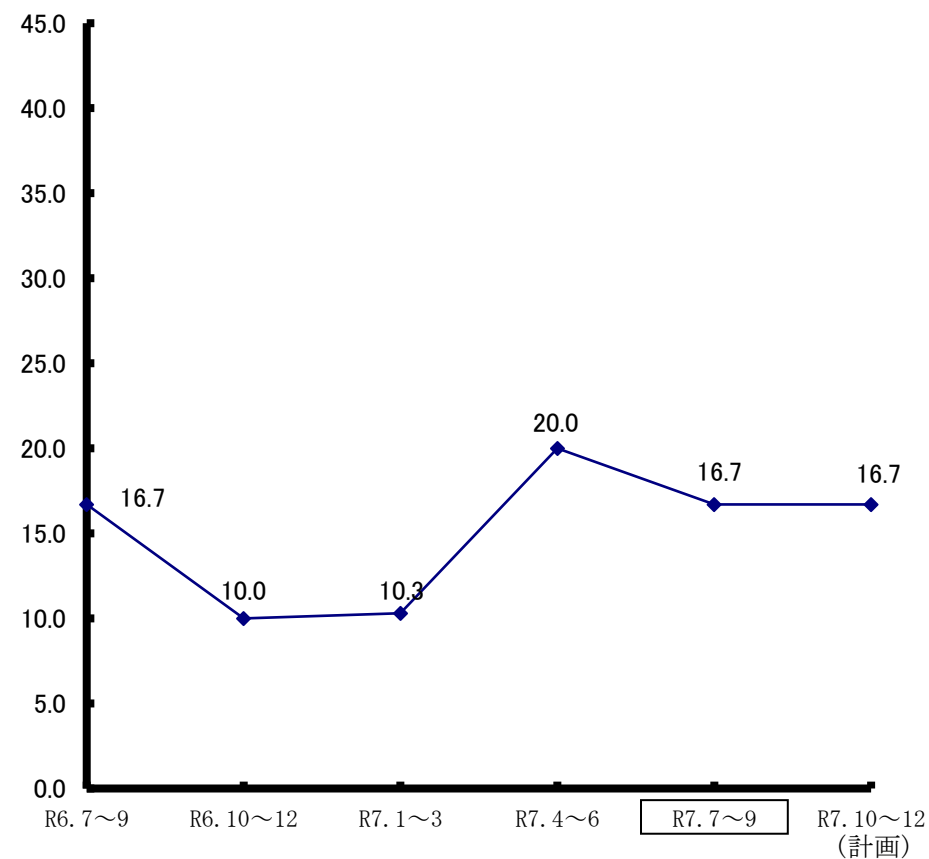
来期は、採算の改善を予想する企業、採算の悪化を予想する企業がともに減少することから、採算D・Iは今期と横ばいにとどまる見通しです。



設備投資

製造業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期は大幅に増加していましたが、今期は減少に転じ、16.7となっています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は今期と横ばいにとどまる見通しとなっています。



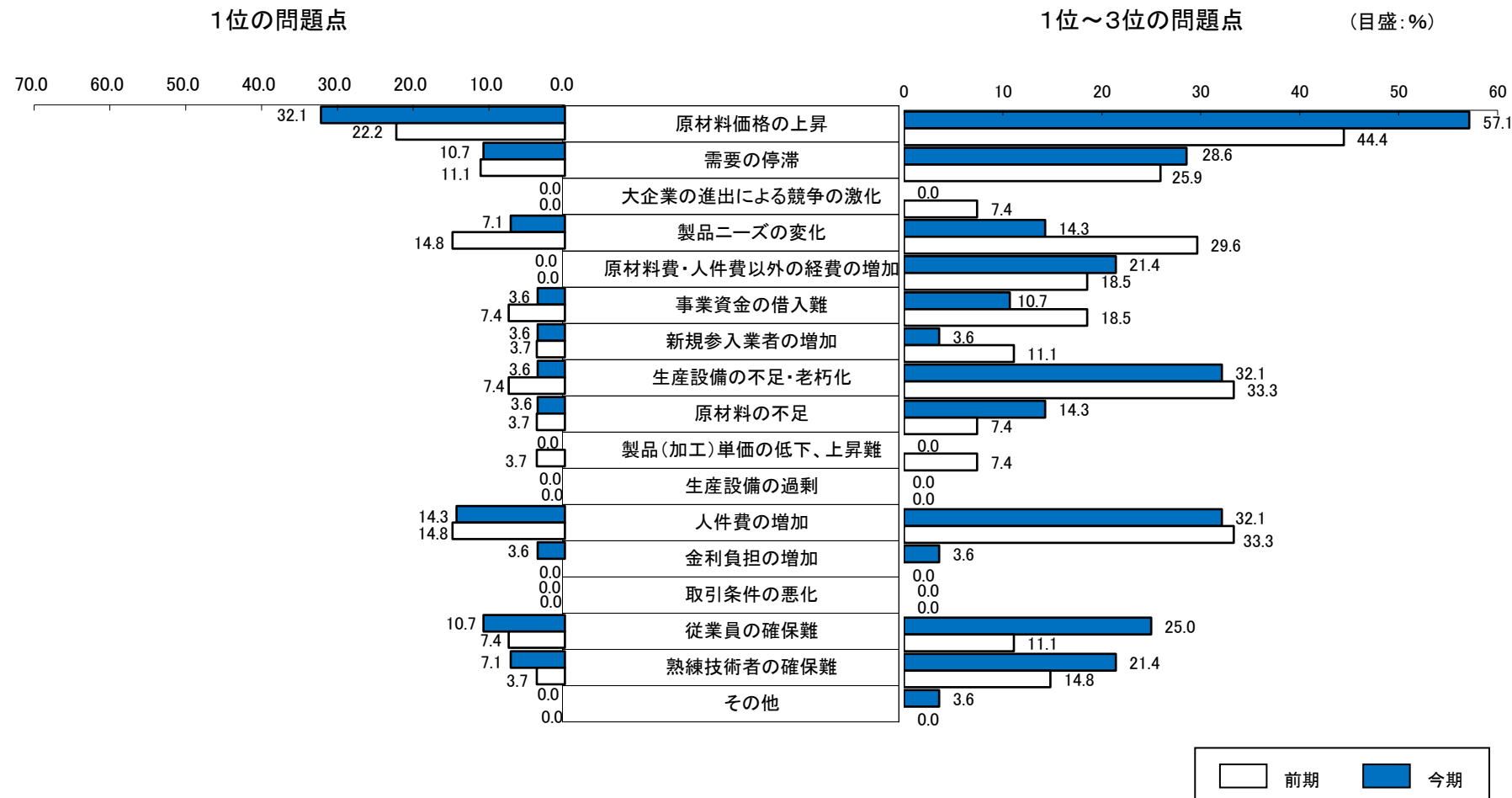
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

製造業の推移

経営上の問題点

岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



建設業の推移

売上高

<今 期>



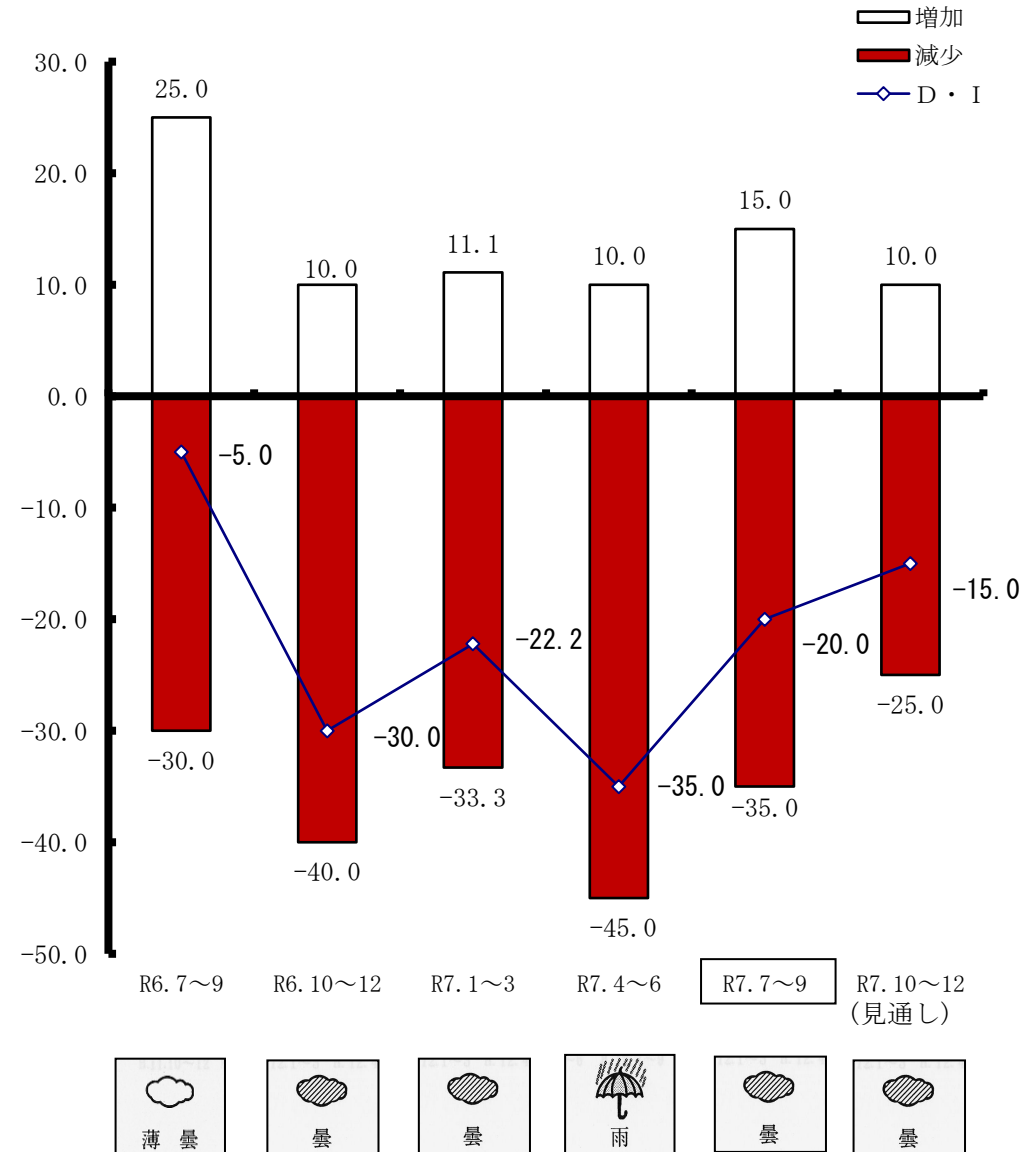
<来期見通し>



前期大幅に悪化していた建設業の売上高D・Iは、今期は大幅な改善となりました。今期売上高が増加した企業割合は5.0ポイント増加し、売上高が減少した企業割合が10.0ポイントの減少となったため、売上高D・Iは大きく上昇して△20.0まで改善しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業の割合は減少するものの、売上高の減少を予想する企業の減少幅が大きいことから、売上高D・Iは今期に引続き上昇することが予想されています。

※建設業の売上高は完成工事高



建設業の推移

採算

<今 期>

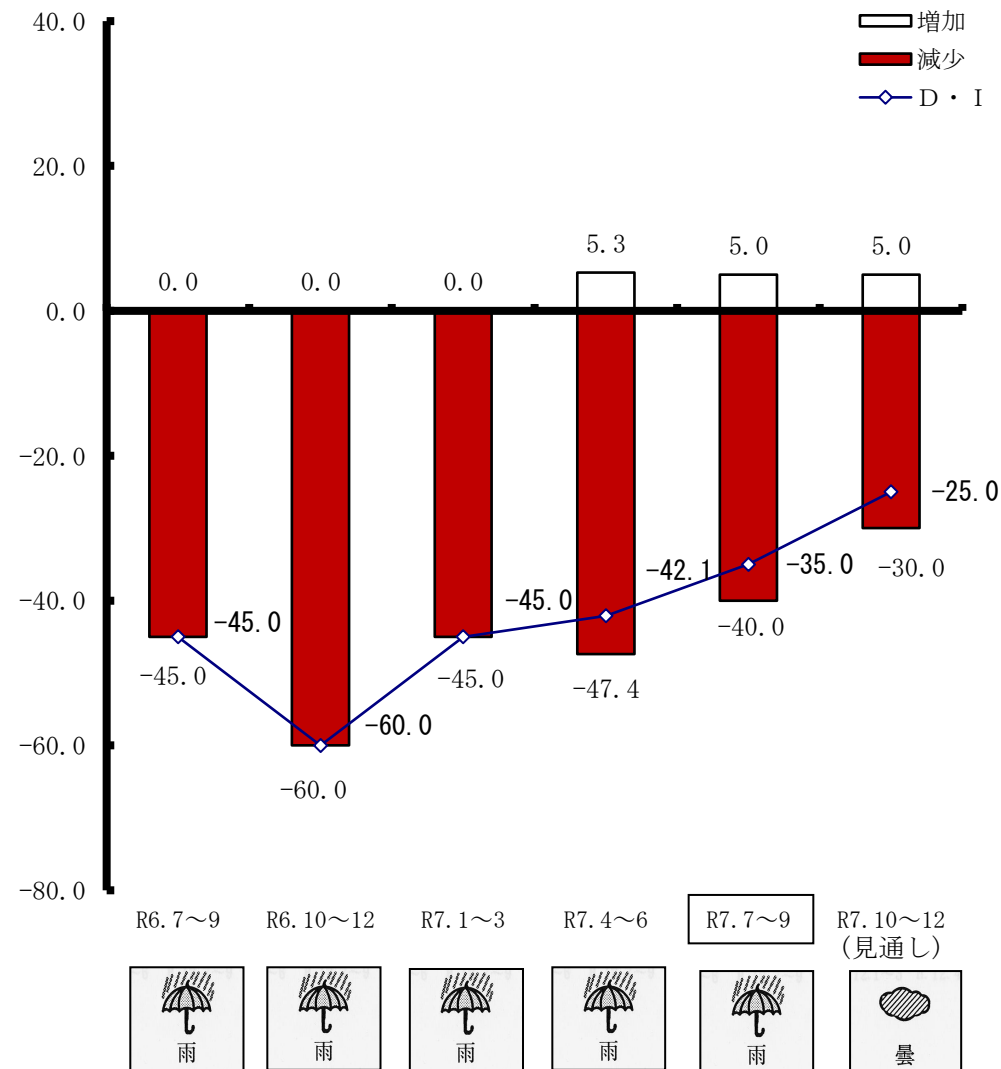


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合は、前期と横ばいにとどまったものの、採算の悪化を挙げた企業の割合が7.4ポイント減少したことにより、採算D・Iは前期に引き続いて上昇し、△35.0まで改善しています。

来期は、採算の改善を予想する企業が今期と横ばいにとどまるものの、採算の悪化を予想する企業が減少することから、採算D・Iは4期連続の改善となることが予想されています。



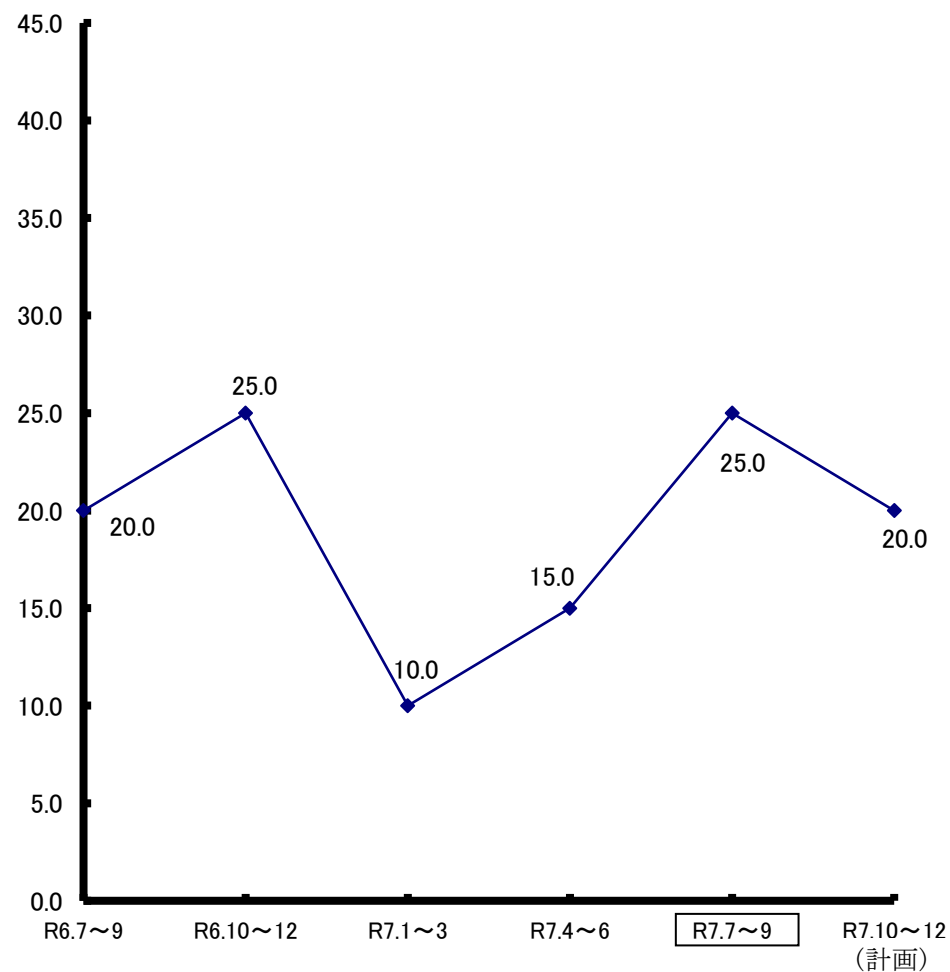
建設業の推移

設備投資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期に引き続いて増加し10.0ポイント増加して25.0まで上昇しています。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は減少に転じ、5.0ポイント減少して20.0程度となることが予想されます。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。



建設業の推移

経営上の問題点

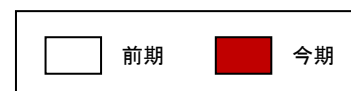
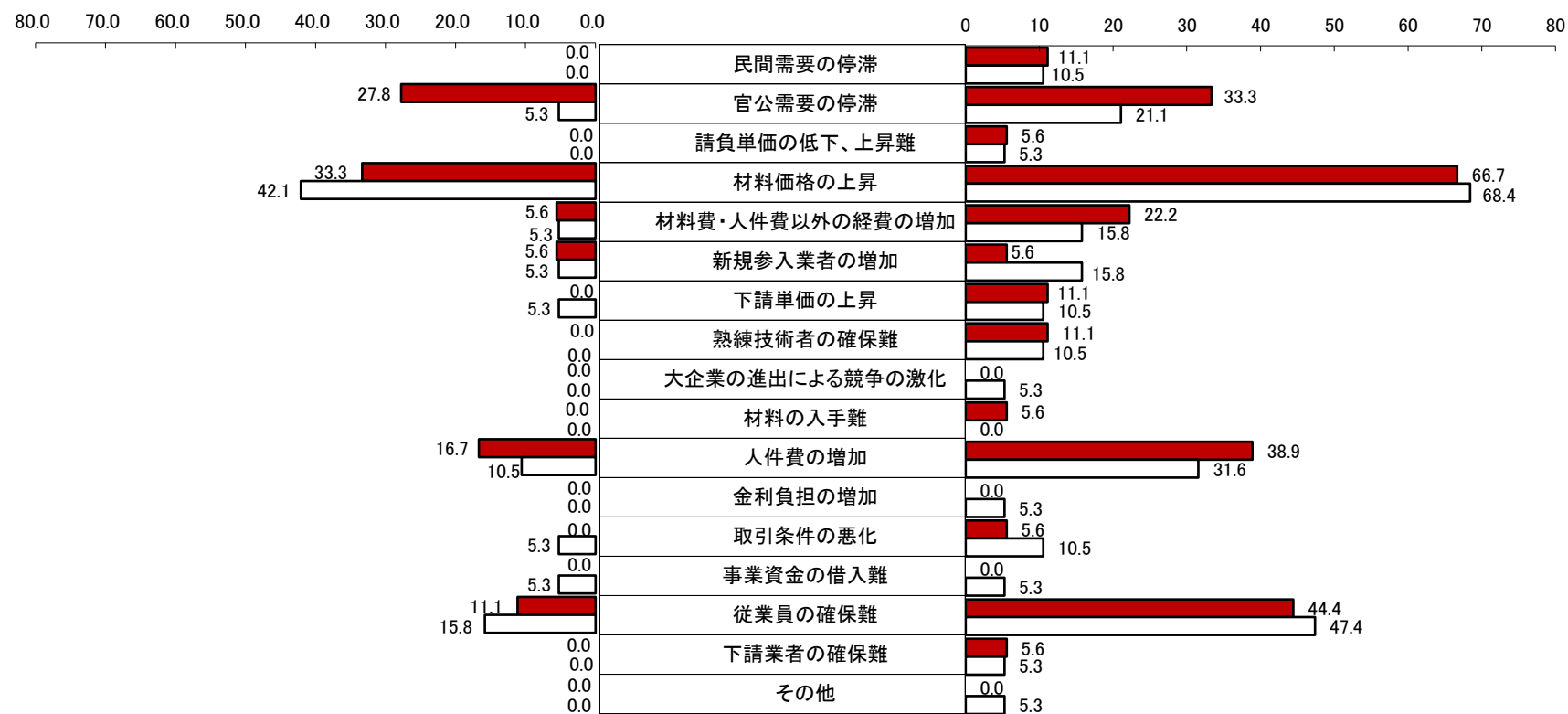
岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)

1位の問題点

1位～3位の問題点

(目盛: %)

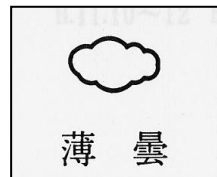


小 売 業 の 推 移

売 上 高

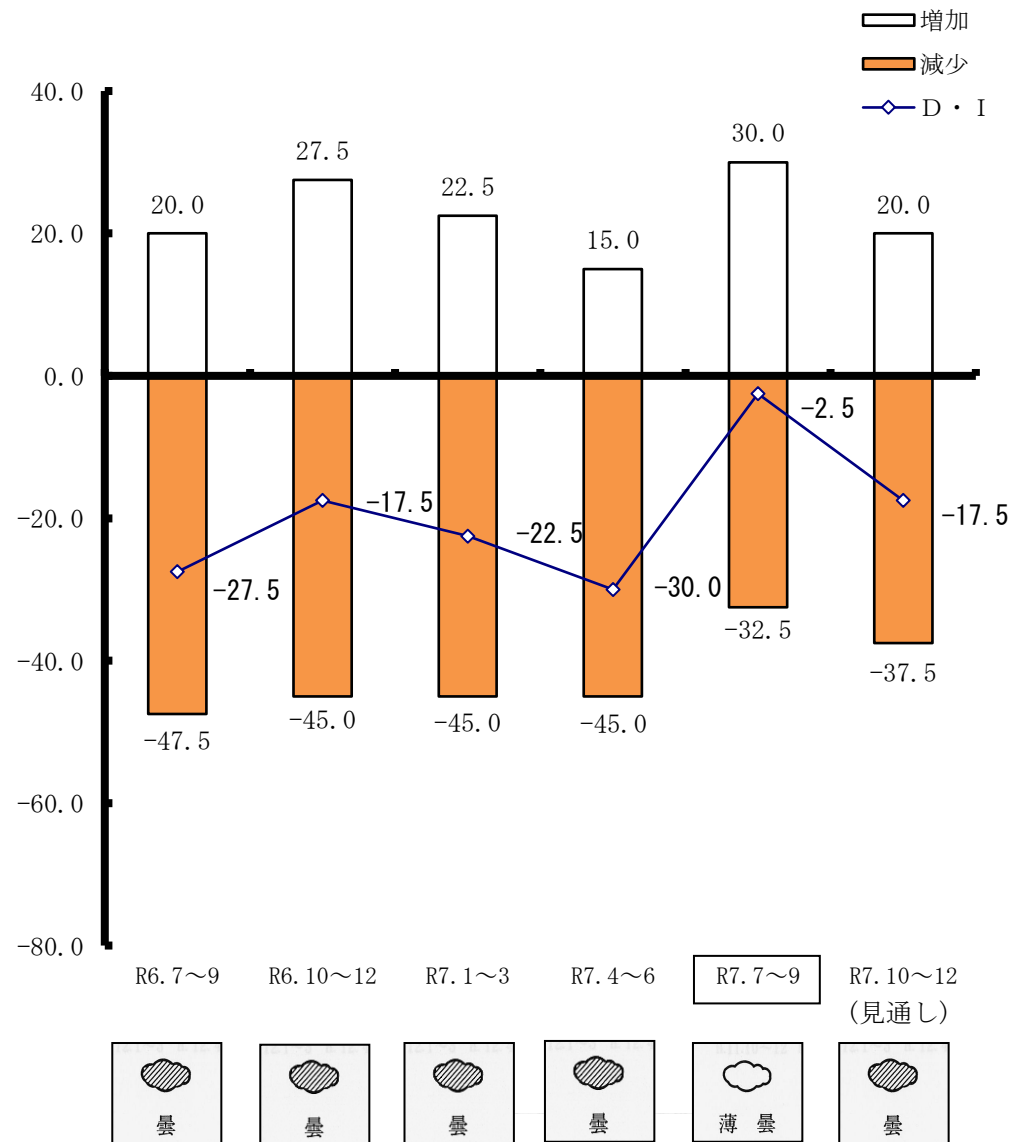
<今 期>

<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が15.0ポイント増加し、売上高減少企業の割合が12.5ポイント減少したことにより、売上高D・Iは27.5ポイントの大幅な上昇となり△2.5まで改善しました。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が減少し、売上高の減少を予想する企業割合が増加することから、売上高D・Iは低下に転じる見通しです。



小 売 業 の 推 移

採 算

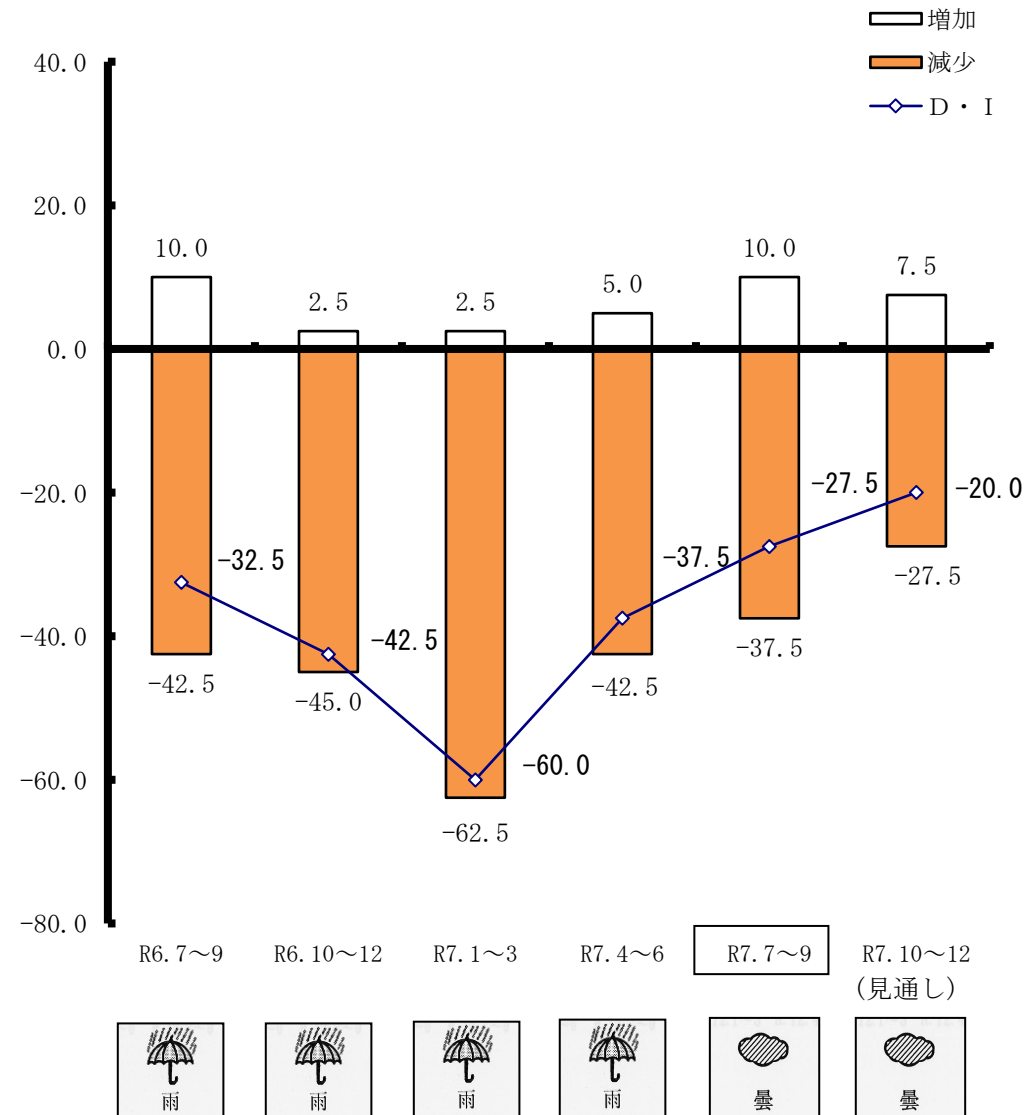
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が、5.0ポイント増加し、採算が悪化した企業割合が5.0ポイント減少したことから、採算D・Iは10.0ポイント増加して2期連続の上昇となり、△27.5まで改善しました。

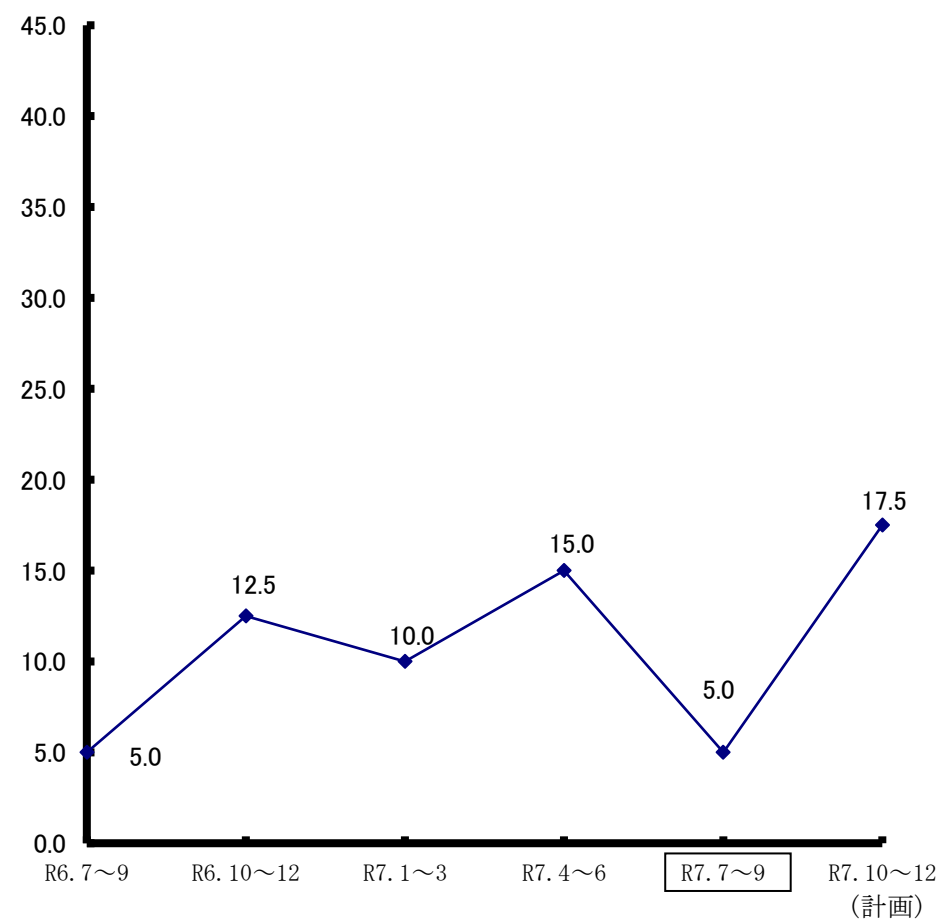
来期は、採算の好転を予想する企業割合が減少するものの、採算の悪化を予想する企業割合の減少幅がこれを上回ることから、採算D・Iは今期に引続き改善する見通しです。



設 備 投 資

今期、小売業において設備投資を実施した企業数の割合は前期より10.0ポイント減少して5.0まで低下しました。

来期は、設備投資を計画している企業数の割合が増加に転じ、17.5まで上昇する見通しです。



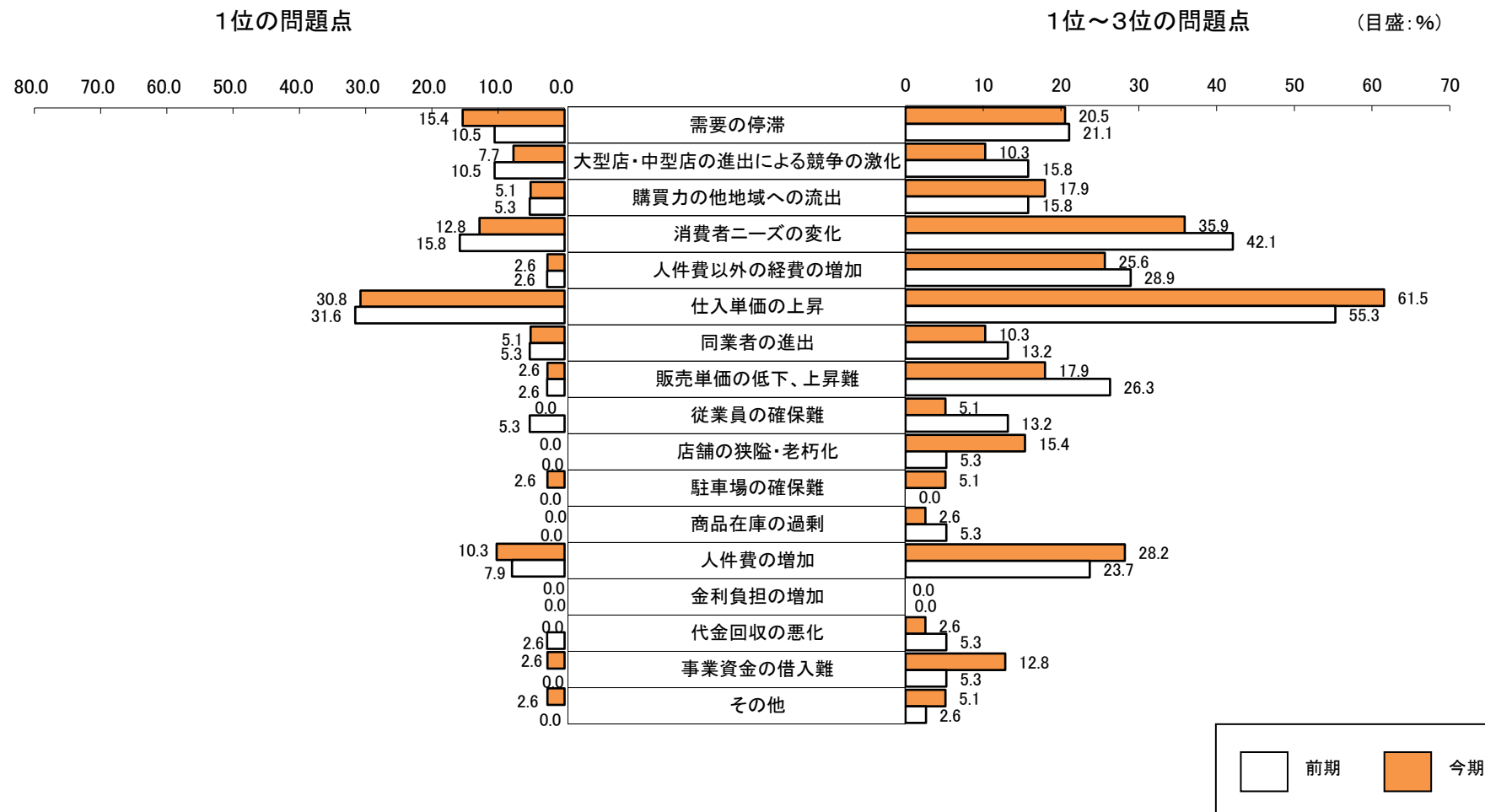
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

小売業の推移

経営上の問題点

岩手県 小売業

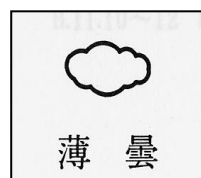
経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



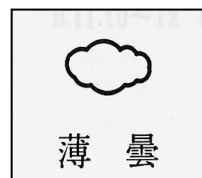
サービス業の推移

売上高

<今 期>

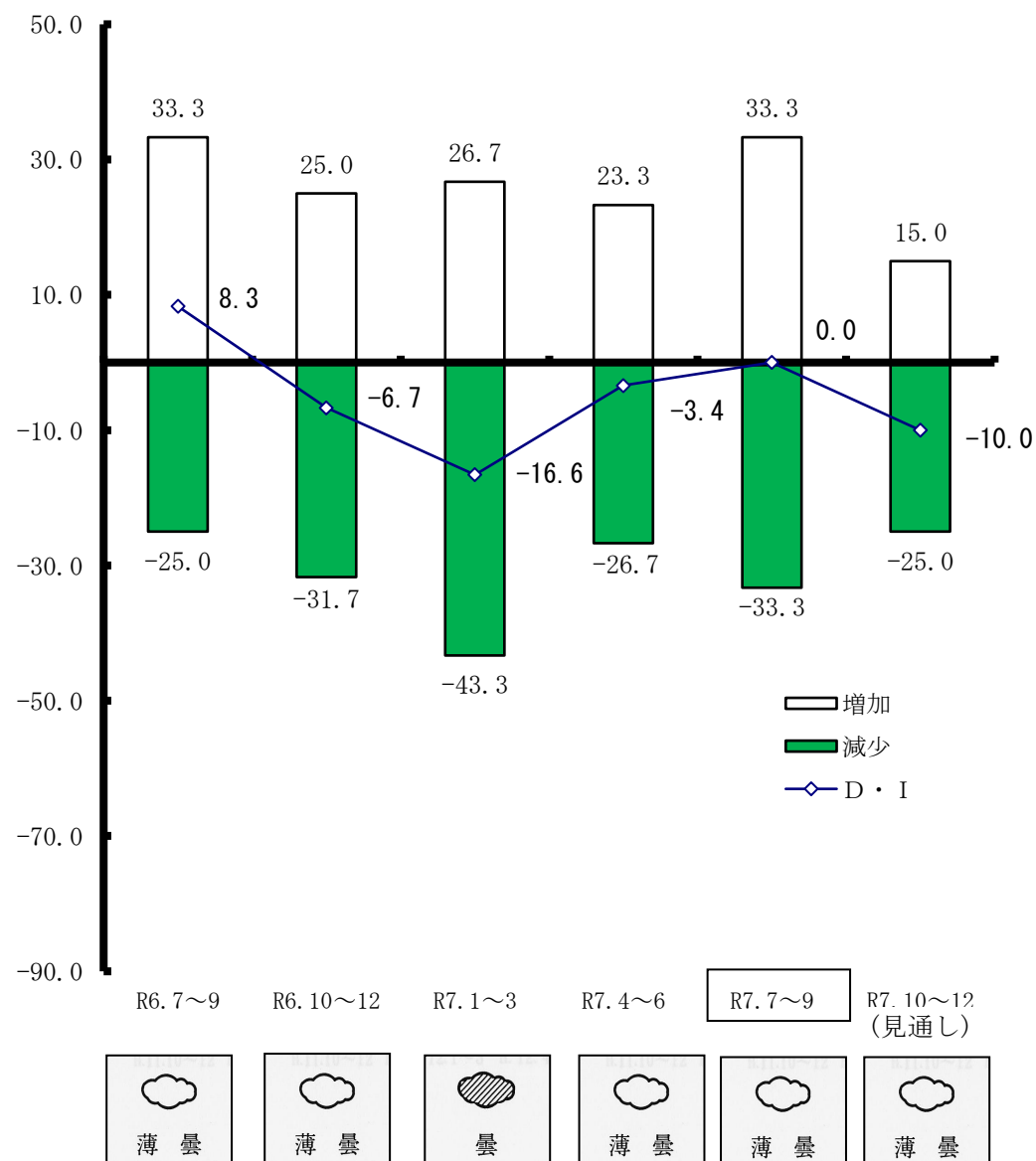


<来期見通し>



今期は売上高増加企業の割合が10.0ポイント増加したものの、売上高減少企業の割合が6.6ポイント増加したことにより、売上高D・Iは3.4ポイントの小幅な上昇にとどまりましたが、ゼロまで改善しました。

来期は、売上高増加を予想する企業の割合が減少する一方、売上高減少を予想する企業割合も減少するものの、減少幅が小さいため、売上高D・Iは再び悪化に転じることが予想されています。



サービス業の推移

採算

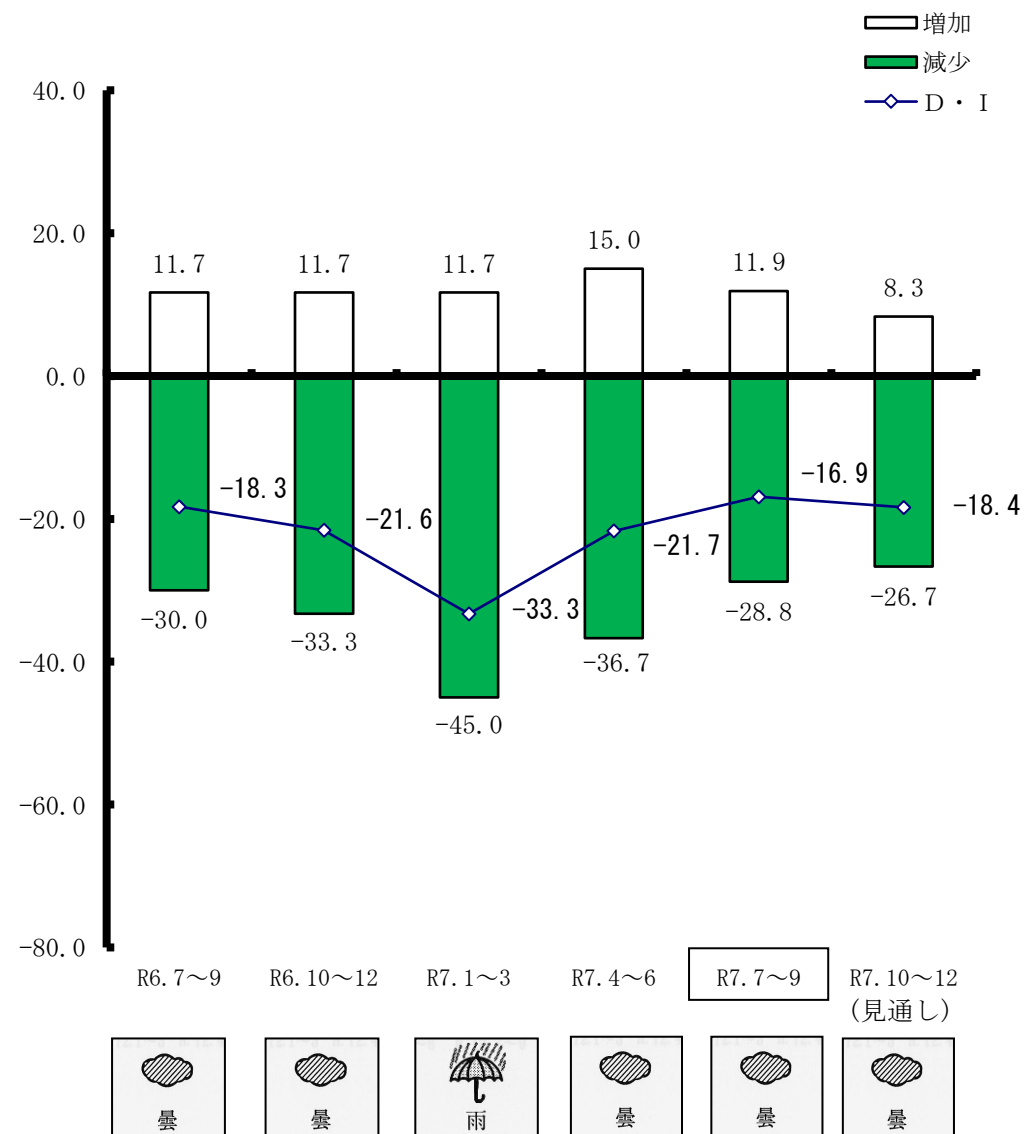
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業割合が3.1ポイント減少したものの、採算が悪化した企業割合が7.9ポイント減少したことにより、採算D・Iは上昇し、△16.9まで改善しました。

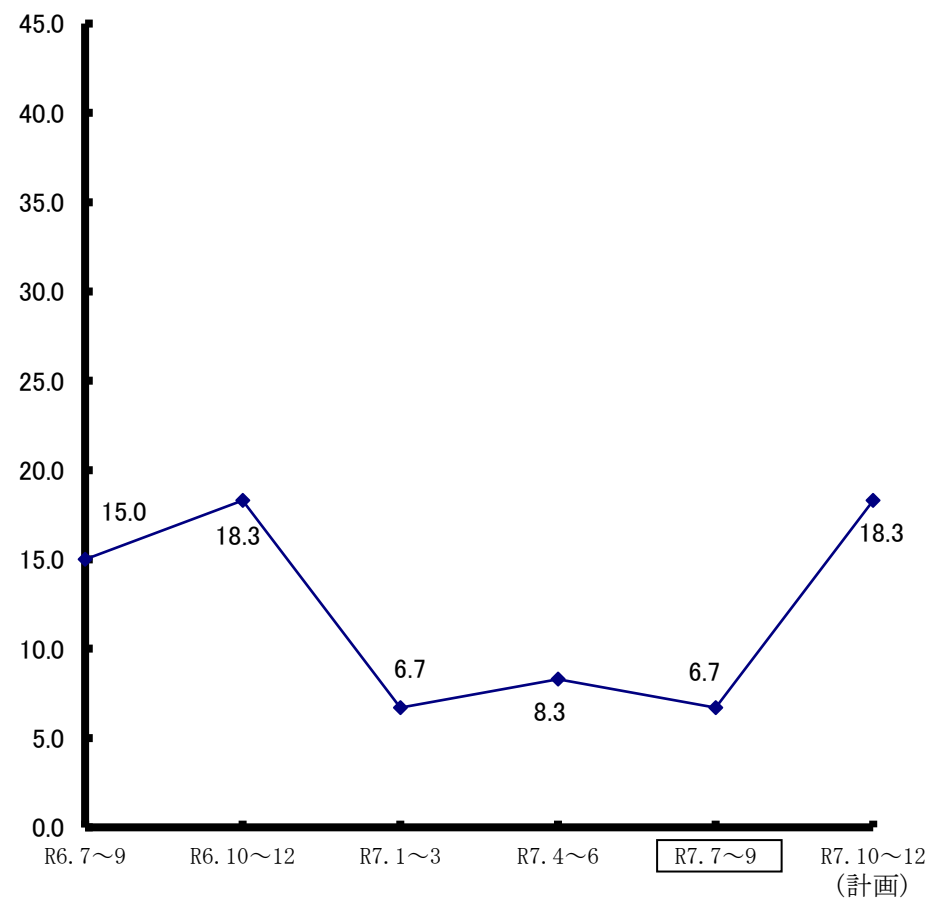
来期は、採算の改善を予想する企業割合が減少し、採算の悪化を予想する企業割合も減少するものの、この減少幅が小さいことから、採算D・Iは今期をわずかに下回るレベルにとどまることが見込まれています。



設備投資

前期増加に転じていた設備投資を実施した企業数の割合は減少に転じ、1.6ポイントと小幅ながら減少して6.7にとどまっています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は大幅に増加することが見込まれ、18.3程度まで上昇する見通しです。



(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

サービス業の推移

経営上の問題点

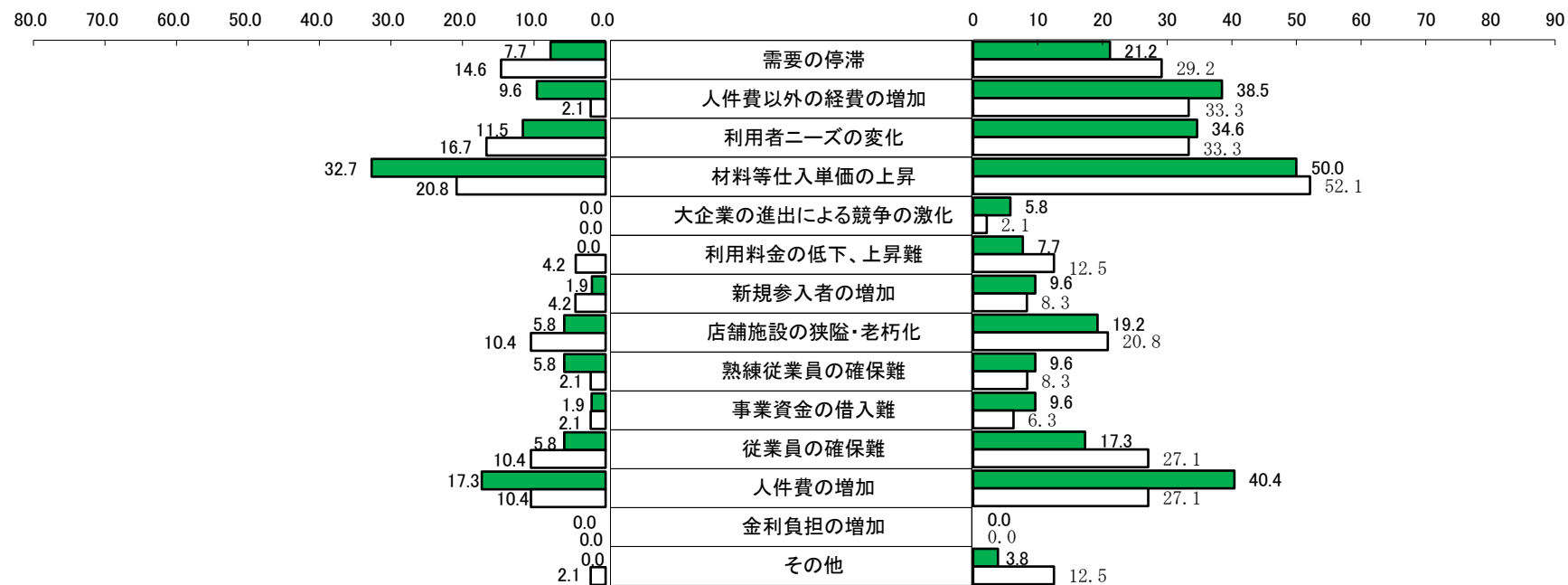
岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)

1位の問題点

1位～3位の問題点

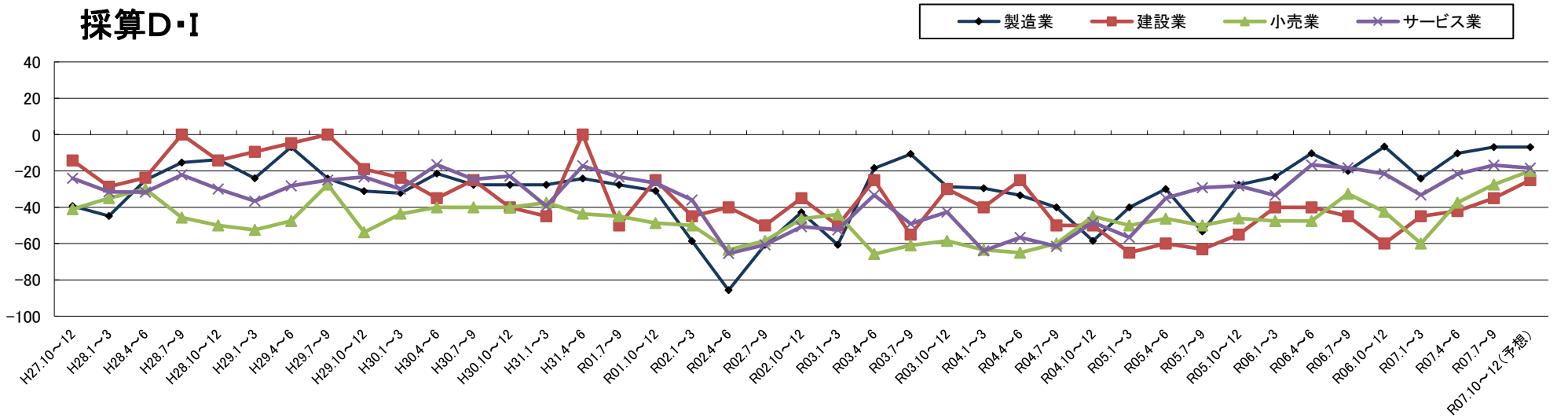
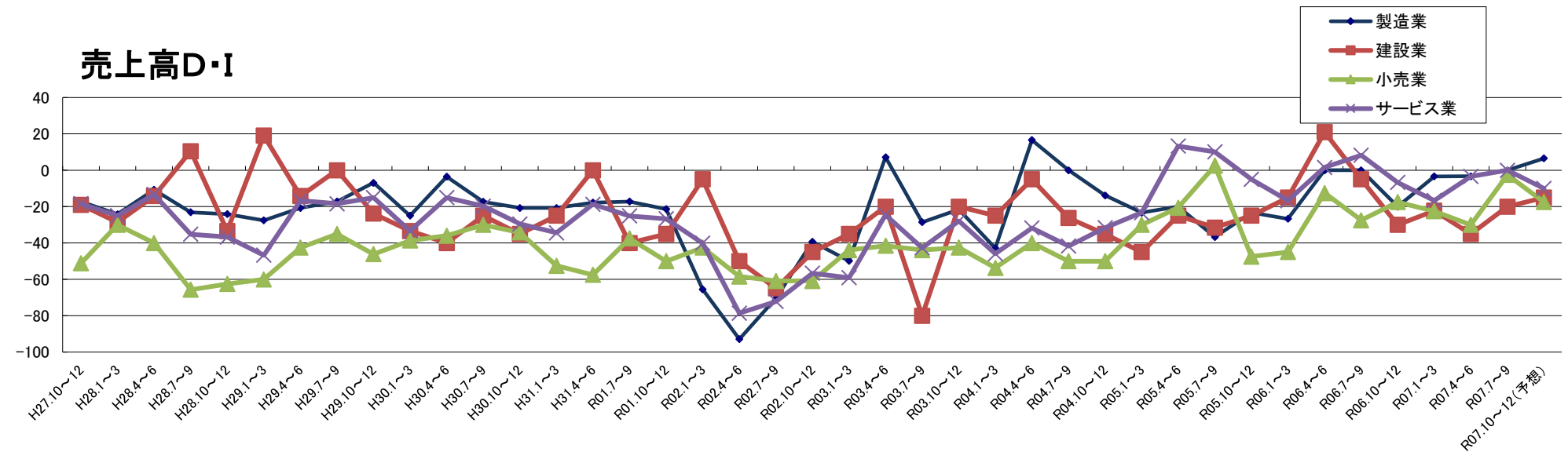
(目盛: %)



前期

今期

全産業の過去データの推移(過去10年間)



集 計 資 料

調 査 要 項

1. 調 査 対 象 (1) 対象地区 県内 10 商工会地区 二戸市、八幡平市、滝沢市、矢巾町、前沢
(商工会名) 金ヶ崎町、大槌、山田町、野田村、一戸町
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業
2. 調 査 対 象 期 間 令和 7 年 7 月～9 月を対象とし、調査時点は令和 7 年 9 月 1 日としました。
3. 調 査 方 法 (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。
(2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。

4. 対象企業等内訳

業種 \ 項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 (%)
製造業 (地域産業)	30 (20.0)	30 (20.0)	100.0
建 設 業	20 (13.3)	20 (13.3)	100.0
小 売 業	40 (26.7)	40 (26.7)	100.0
サ ー ビ ス 業	60 (40.0)	60 (40.0)	100.0
	150 (100.0)	150 (100.0)	100.0

(注) カッコ内の数字は、構成比 (%) を表す。

5. そ の 他 本報告書中の D・I とは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、各調査項目についての増加 (上昇、好転、長期化) 企業割合と減少 (低下、悪化、短期化) 企業割合の差を示すものであります。